

第3回学校関係者評価委員会

(学校評価・後期 今年度の結果及び考察)



令和7年1月30日(木)18:30(於:校長室)

八幡浜市立双岩小学校

令和6年度 第3回学校関係者評価委員会

八幡浜市立双岩小学校

令和7年1月30日（木）18:30～
会場：校長室

- 1 開会挨拶（学校長）
- 2 後期（前・後期の比較）学校評価結果報告（教頭）
 - （1）資料説明（評価アンケート集計結果等）
 - （2）考察と来年度への方向性
- 3 学校関係者評価委員からの意見・要望等について
- 4 情報交換
- 5 その他
- 6 閉会挨拶（学校関係者評価委員：PTA 会長）



自ら学び、考え、正しく行動しようとする児童の育成に努める。

1	児童	家でしゅくだいや勉強をがんばっていますか。	前期 後期 前期 後期 前期 後期
	保護者	お子さんは、家で宿題や勉強に取り組んでいますか。	
	教職員	基礎・基本の確実な定着・向上に努めたか。	
2	児童	学校の授業はよく分かりますか。	前期 後期 前期 後期 前期 後期
	保護者	お子さんは、授業は分かりやすい、楽しいと思っていますか。	
	教職員	授業改善を心掛け、分かりやすい授業づくりに努めたか。	
3	児童	家庭で、読書をしていますか。	前期 後期 前期 後期 前期 後期
	保護者	お子さんは、家庭で読書をしていますか。	
	教職員	読書の喜びを体験させ、読書に対する関心や意欲を高めるよう努めたか。	
4	教職員	体験的な学習や問題解決的な学習を重視し、自ら学び自ら考える力の育成に努めたか。	前期 後期

＜考察と次年度への方向性＞

＜考 察＞ ※ 10%以上の増減を中心として	
1	【児童】への質問「家で宿題や勉強をがんばっていますか。」に対して、「思う」と回答した割合は、前・後期ほぼ同じ、【保護者】の割合（ 前期64%→後期53% ）は低下、【教職員】の割合（ 前期38%→後期13% ）も低下している。
2	【児童】への質問「学校の授業はよく分かりますか。」に対して、「思う」の割合（ 前期69%→後期58% ）が低下、「やや思う」と回答した児童の割合（ 前期28%→後期42% ）が上昇した。学習に関連する問いについては、【保護者】の「思わない」の割合（前期3%→後期9%）が低下し、【教職員】の「やや思う」の割合（ 前期38%→後期63% ）は上昇している。
3	【児童】への質問「家庭で読書をしていますか。」に対して、「思う」「やや思う」回答した割合（前期94%→後期94%）は同じであった。読書に関連する問いについては、【保護者】の割合（前期67%→後期76%）と【教職員】の「思う」の割合（ 前期13%→後期50% ）が大幅に上昇した。
4	【教職員】への質問「体験的な学習や問題解決的な学習を重視し、自ら学び自ら考える力の育成に努めたか。」に対して、「思う」の割合（ 前期100%→後期50% ）と大きく低下している。

＜次年度への方向性＞		
○	家での宿題や勉強について、児童、保護者ともに大きな変化は見られないが、概ね基本的な学習習慣が身に付ついてきたと思われる。教職員の結果からは、まだ改善の余地が感じられるが、月に1回の生活習慣調査（双岩っ子のくらし）から子どもたちの傾向を捉え、粘り強く指導にあたりたい。また、学習の理解度についても、今回のアンケート結果や2月に行う標準学力検査の結果をふまえて、次年度に生かしていきたい。	
○	読書については、学校で読んでいても家庭では読んでいないケースがあり、本の内容なども個人差がある。本を選ぶ際には、発達段階に応じた声掛けを行い、「読み聞かせボランティア」の取組を継続したり、親子読書を奨励したりしながら、子どもたちの読書に対する意欲を高めていきたい。	
○	後期は、課外学習や学校行事など体験的な学習が多かったこともあり、割合に変化が生じたと考えられる。後期も、前期と同じように教育課程を意識した課題解決に取り組んでいる。来年度は、さらに成果の得られる教育活動を展開していきたい。	

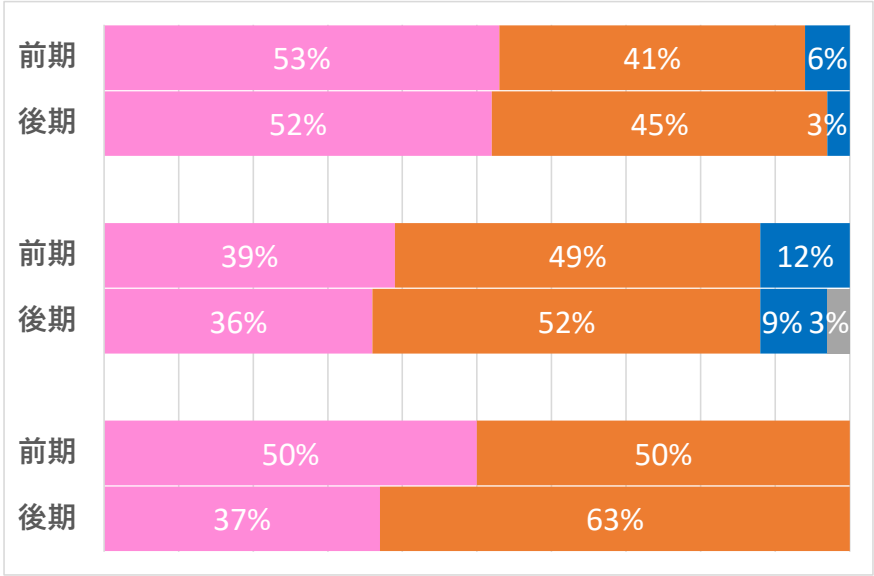
困難や目標に向かって挑戦し、やり抜こうとする態度を育てる。

5	児童	学校へ行くのは楽しいですか。	前期	84%	13%	3%
			後期	73%	21%	6%
5	保護者	お子さんは、学校に楽しく通っていますか。	前期	58%	42%	
			後期	67%	27%	3% 3%
	教職員	学校生活の中で、児童の活躍の場面を作ることができているか。	前期	38%	62%	
			後期	75%	25%	

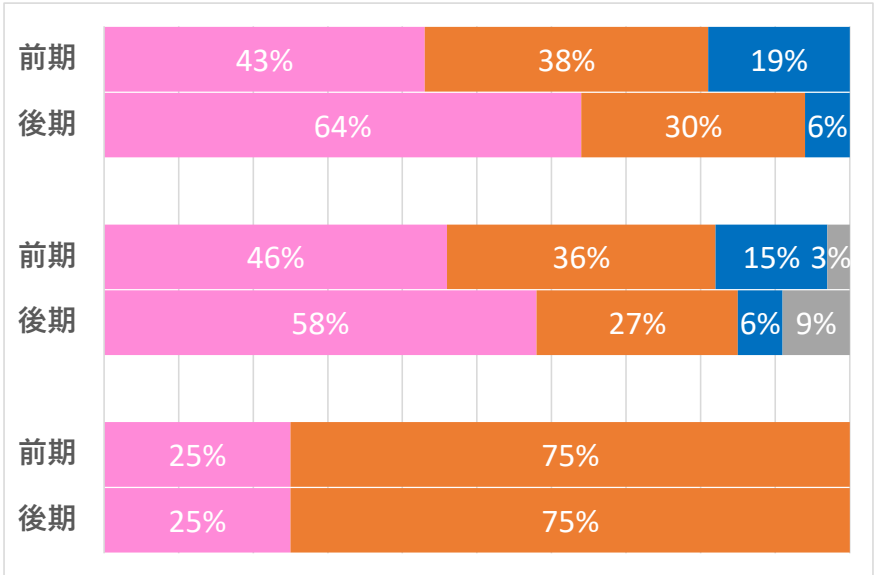
前期	75%	19%	6%
後期	55%	45%	
前期	58%	42%	
後期	36%	52%	12%
前期	38%	62%	
後期	75%	25%	

前期	84%	16%	
後期	82%	18%	
前期	52%	42%	6%
後期	64%	33%	3%
前期	50%	50%	
後期	50%	50%	

8	児童	家で手伝いができましたか。
	保護者	お子さんは手伝いをよくしていますか。
	教職員	勤労奉仕する児童の育成に努めたか。



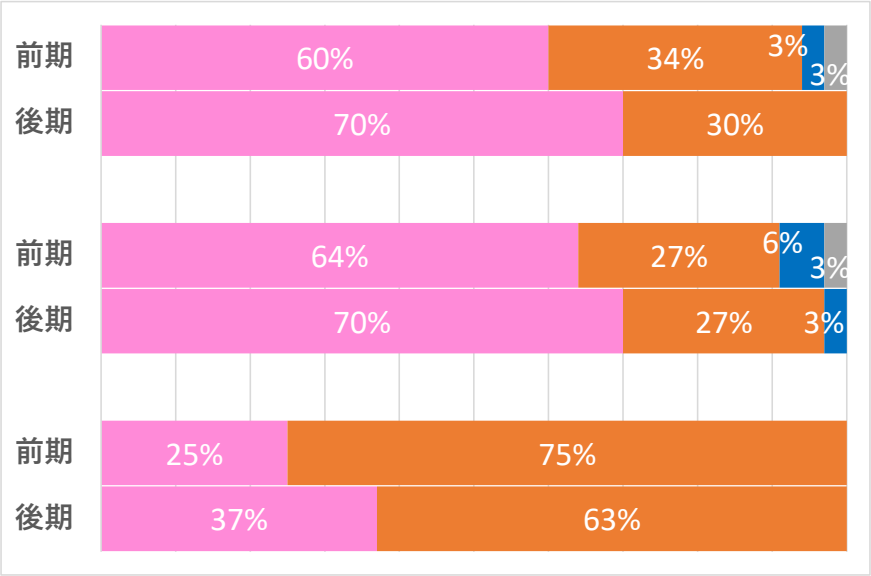
9	児童	毎日、なにか運動をしていますか。
	保護者	学校は、子どもの体力向上や健康増進を図る教育活動のために努力していると思いますか。
	教職員	個の特徴を理解し、適切なアドバイスで体力づくりを支援することができたか。



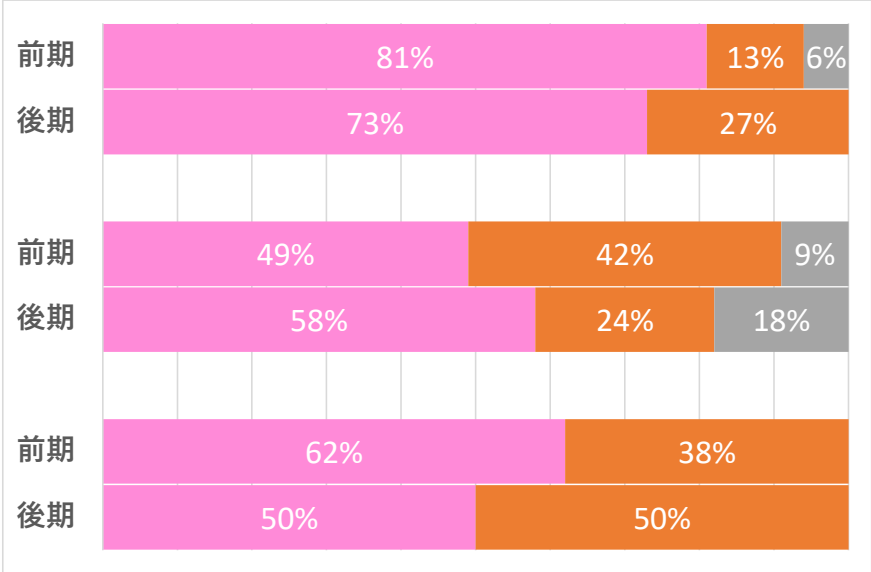
<考察と次年度への方向性>

<考察> ※ 10%以上の増減を中心として 5 【児童】への質問「学校に行くのは楽しいですか。」に対して、「思う」の割合（前期84%→後期73%）が低下しているが、「やや思う」の割合（前期13%→後期21%後期）が上昇している。また、「思わない」の割合（前期3%→後期6%）も上昇していた。登校に関連する問いについては、【保護者】の「思う」の割合（前期58%→後期67%）と「思わない」の割合（前期0%→後期3%）が上昇している。【教職員】「児童の活躍の場面を作ることができたか。」の質問に対して、「思う」の割合（前期38%→後期75%）が大幅に上昇した。 6 【児童】への質問「勉強や運動などの学校の活動を諦めずに粘り強く取り組むことができましたか。」に対して、「思わない」の割合（前期6%→後期0%）が向上している。【保護者】の「粘り強く」に関連する問いについては、「思わない」の割合（前期0%→後期12%）が増えている。【教職員】の児童の活動に対する支援の割合（前期38%→後期75%）が大幅に上昇した。 7 【児童】への質問「先生たちは、話を聞いてくれますか。」に対して、前・後期ともに「思う」「思わない」の割合が高い。学校への連絡や相談のしやすさ、適切な対応について【保護者】の「思う」の割合（前期52%→後期64%）が上昇し、【教職員】の保護者、児童への相談や対応についての割合は、前・後期ともに同じであった。 8 【児童】への質問「家で手伝いができましたか。」に対して、前・後期で大きな変化は見られない。【保護者】も前・後期ともにほぼ同じ割合という結果だった。【教職員】への質問「勤労奉仕する児童の育成に努めたか。」については、「「思う」の割合（前期50%→後期37%）が低下しているが、トータルで見ると大きな変動はない。 9 【児童】への質問「毎日、なにか運動をしていますか。」については、「思う」の割合（前期43%→後期64%）の他、「思わない」の割合（前期19%→後期6%）が向上している。【保護者】への運動に関する質問についても「思う」の割合（前期46%→後期58%）と「思わない」の割合（前期15%→後期6%）が向上している。 <次年度への方向性> ○ 学校行事を中心に、子どもたちが楽しみながら学び、活躍できる場を設定することができた。保護者にも、学校で子どもたちが意欲的に学ぶ様子が伝わったことで結果が改善されたと思われる。HPや校報、学級通信など、従来の方法も大切にして積極的に学校の様子を伝えていきたい。 ○ 児童理解については、前・後期ともに良好な結果となった。傾聴の姿勢を保ち、様々な活動に取り組んできた成果である。来年度も、タイムリーな教育相談や「やわたしはま元気ノート」などの活用により、児童理解に努めたい。 ○ 家庭での手伝いについては、「ひまわり会」でも話題に上っている。家庭では、子どもにさせるより、自分でやった方が早い作業もあるが、いろいろな経験をさせたり、見せたりしながら子どもの自己肯定感を育てていきたい。 ○ 運動については、秋から冬場にかけて、学校、家庭での「縄跳び」練習を奨励している。タブレットで練習の様子を撮影するなど、家庭との連携を図り、意欲的に運動する取組も行ってきた。その影響もあり、子どもや保護者も体力向上につながったと考えているのではないだろうか。次年度も、効果的な方法を検討していきたい。	
---	--

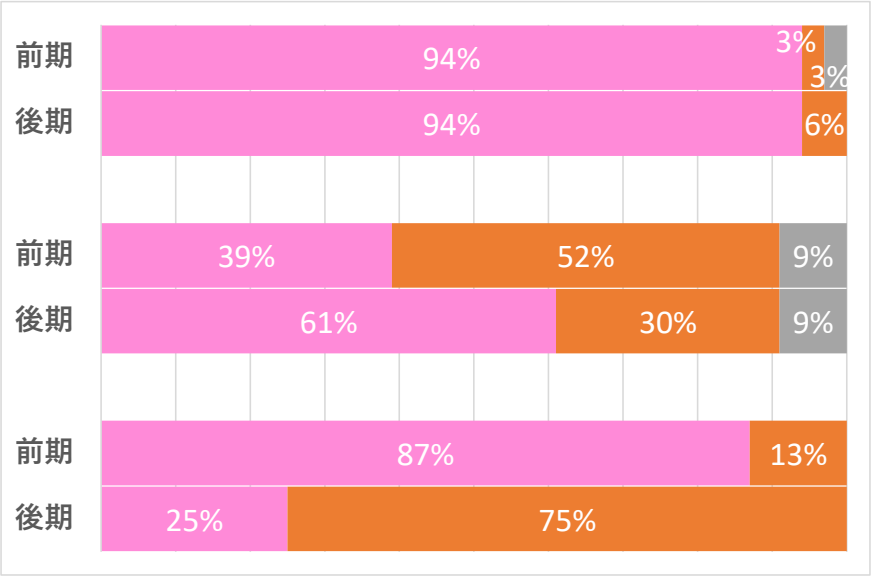
10	児 童	家庭で決めたゲームや動画の時間を守れていますか。
	保護者	学校は、家庭と連携しながらゲーム・動画についての約束を作り、守らせるよう努めていますか。
	教職員	家庭と連携し、児童がゲーム・動画についての約束を守るよう努めたか。



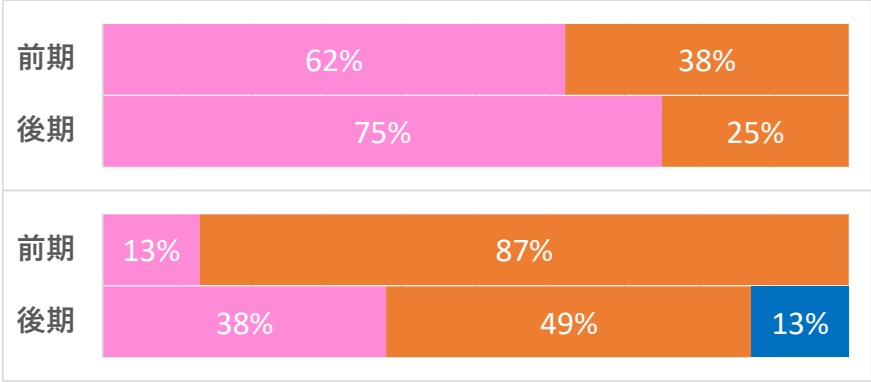
11	児 童	きまりを守って、正しく行動できましたか。
	保護者	学校はお子さんの言葉遣いや規範意識を高めるための指導に努めていますか。
	教職員	児童の間違った行動に対して、きちんと指導することができたか。



12	児 童	安全に気を付けて生活していますか。
	保護者	学校は、児童の安全確保や施設・設備の安全管理ができていますか。
	教職員	危機管理意識を持ち、子どもの安全確保に努めると共に、安全な学校環境づくりに努めたか。



13	教職員	学校教育目標の達成に向け、自分の校務分掌を自覚し、責任を持って取り組むことができたか。
14	教職員	業務改善を図り、ゆとりある職務遂行と健康管理に努めることができたか。

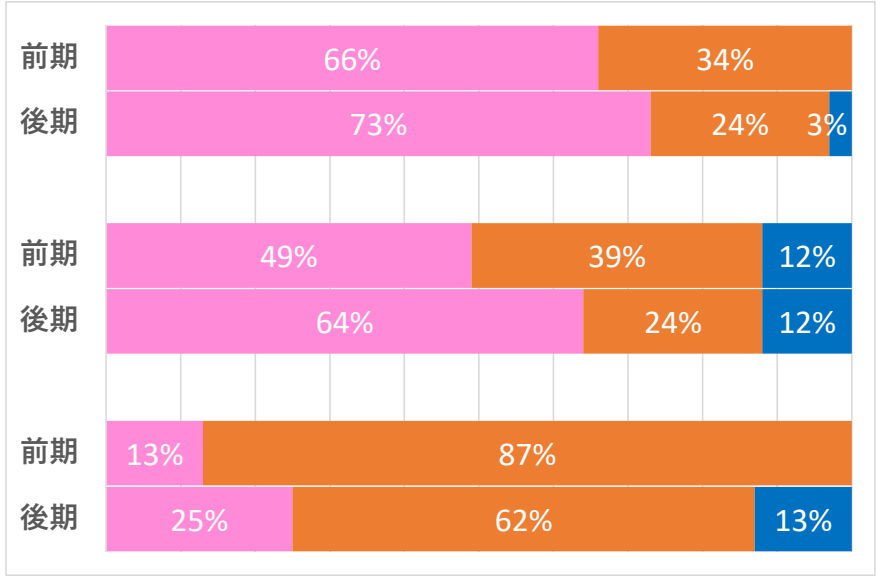


<考察と次年度への方向性>

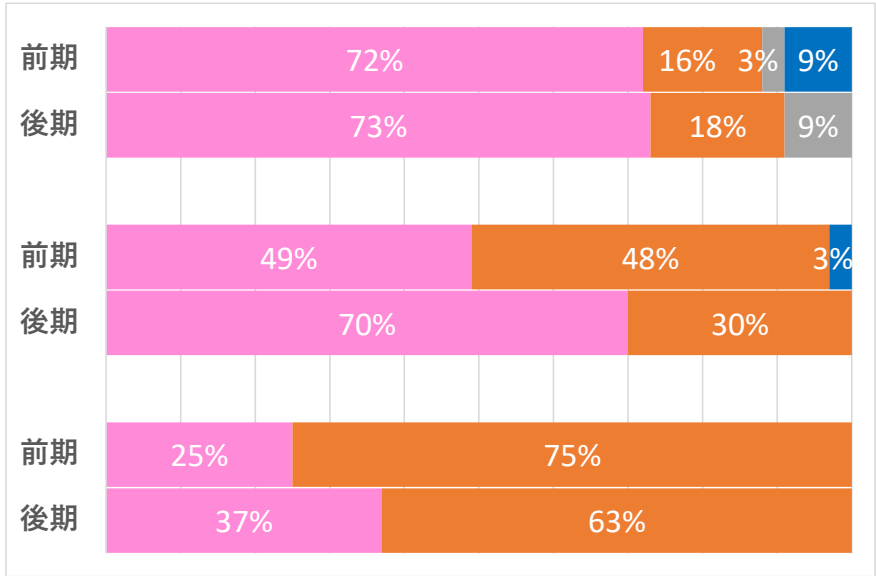
< 考察 >		
10	【児童】	への質問「家庭で決めたゲームや動画の時間を守れていますか。」については、「思う」の割合（ 前期60%→後期70% ）が上昇している。家庭内のゲームや動画に関するルールや順守において、【保護者】の「思う」の割合（前期64%→後期70%）と【教職員】のゲーム・動画における家庭の連携について、「思う」の割合（ 前期25%→後期37% ）も上昇した。
11	【児童】	への質問「きまりを守って正しく行動できましたか。」については、「思う」の割合（前期81%→後期73%）が低下しているが、家庭における【保護者】の言葉遣いや規範意識の指導については、「思う」の割合（前期49%→5後期58%）が上昇している。
12	【児童】	への質問「安全に気を付けて生活していますか。」については、「思う」の前・後期の割合（前・後期94%）はほぼ同じである。【保護者】の学校に対する安全管理についての割合（「 思う 」 39%→61% ）は、大幅に上昇している。【教職員】の危機管理、学校安全の割合（「 思う 」 前期87%→後期25% ）がかなり低下しているができていないという評価ではない。
13	【教職員】	への質問「学校教育目標の達成に向け、自分の校務分掌を自覚し、責任を持って取り組むことができたか。」については、「思う」の割合（ 前期62%→後期75% ）が上昇した。
14	【教職員】	への質問「業務改善を図り、ゆとりある職務遂行と健康管理に努めることができたか。」については、「思う」の割合（ 前期13%→後期38% ）が大幅に上昇している。

- 具体的な方策として、生活習慣調査（双岩っこのくらし）を通しての実態把握が効果的であった。来年度も、必要に応じて教育相談、個人懇談などで改善をしていきたい。今年度以上に家庭との連携を深め、情報共有することで未然防止につなげたい。
- 様々な場面で、児童の言葉遣いや規範意識が高まるような指導を行ったが、言葉については、家庭の影響がかなり大きいと感じる。学校の取組が見えづらいことは否めないが、前・後期とも大きな事案は発生していない。来年度も保護者との連携を図り、健全育成に努めたい。
- 保護者の結果として、前期よりも学校の安全管理についてある程度の評価を得た。これは学校だけではなく、地域による協力があるものと認識している。今後も地域や様々な人達の力を借りながら、地道な指導、見守り等を行っていきたい。
- 後期は、学校行事も多く、教職員も多忙であった。しかし、学校教育目標の達成に向け、教職員一人一人が校務に対して責任を持ち、支えあって取り組んだことが、子どもたちの活躍につながったと考える。今後も、チームあるいは複数で校務に取り組む体制を維持し、自覚と責任を持って教育活動に努めたい。
- 日頃の業務を必要に応じて簡素化したり、各学校行事の効率化を図ったりする取組を推進してきた。さらに、職員間のコミュニケーションを深めるための会話も重視してきた。「働きやすい雰囲気」を整えることで、子どもたちの教育にも良い影響を与えるはずである。時間的なゆとりを生み出す改善策を講じながらウェルビーイングの向上に努めたい。

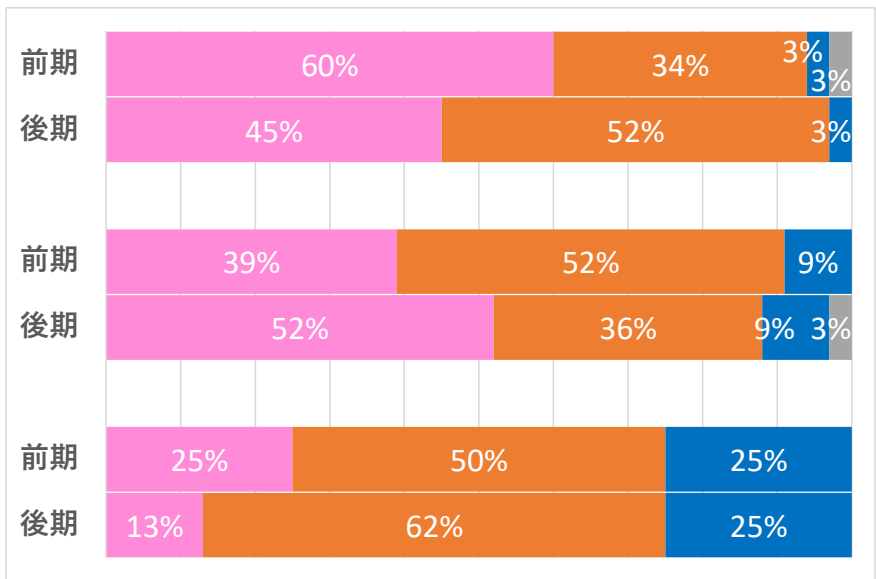
15	児童	地域の人にあいさつができましたか。
	保護者	お子さんは、家庭・地域で挨拶ができていますか。
	教職員	挨拶や返事のできる児童の育成に努めることができたか。



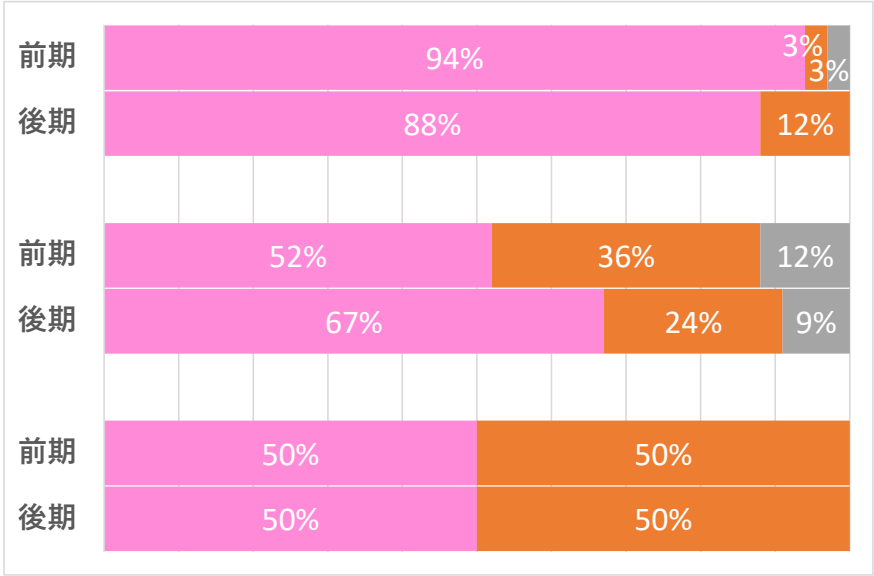
16	児童	公民館や地域の行事にせっきょくてきに参加できましたか。
	保護者	学校は、地域と連携した教育活動ができていますか。
	教職員	家庭・地域と連携をとり、信頼される学校づくりに努めたか。



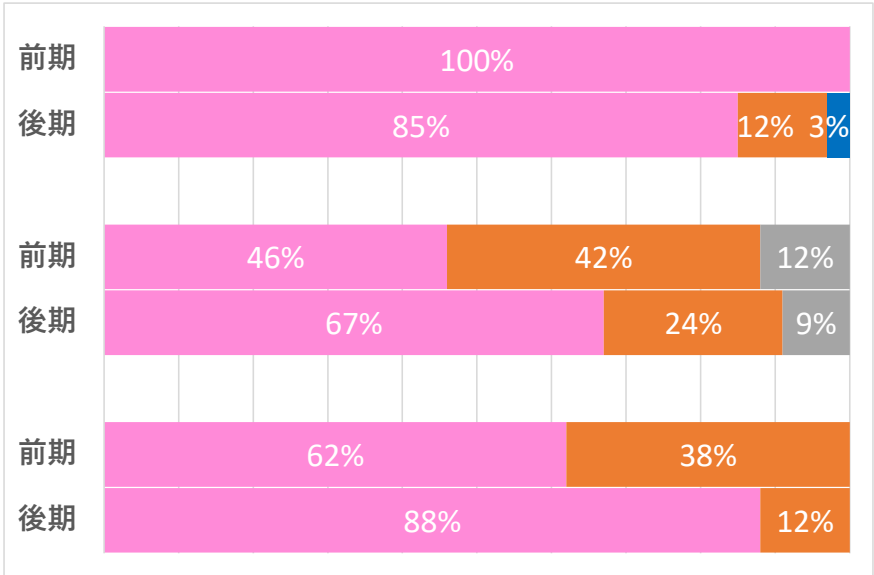
17	児童	学校での様子などを、家の人によく話しますか。
	保護者	お子さんは、学校であったことをよく話しますか。
	教職員	ハッピーテーブル20の推進に努めたか。



18	児 童	友達を大切にしていますか。
	保護者	学校は子どものよさに目を向け、一人一人を大切にした教育を行っていると思いますか。
	教職員	児童間のトラブルに対して、公平に処理し、教職員で情報を共有したか。



19	児 童	いじめのない楽しい学校にしようとがんばっていますか。
	保護者	学校は豊かな心や命を大切にし、いじめのない学校づくりに努めていると思いますか。
	教職員	豊かな心を育み、命の大切さを伝えながら、いじめのない学校づくりに努めたか。



<考察と後期への方向性>

<考察>	
15	【児童】への質問「地域の人にあいさつができましたか。」については、「思う」の割合（前期66%→後期73%）が上昇している。挨拶に関連する【保護者】の割合（ 前期49%→後期64% ）と【教職員】の割合（ 前期13%→後期25% ）が上昇している。
16	【児童】への質問「公民館や地域の行事に積極的に参加できましたか。」については、「思う」の割合（前期72%→後期73%）は、前・後期ほぼ同じ割合であった。学校と地域の連携については、【保護者】の「思う」割合（ 前期49%→後期70% ）と【教職員】の割合（ 前期25%→後期37% ）が上昇している。
17	【児童】への質問「学校での様子などを家の人によく話しますか。」については、「思う」の割合（ 前期60%→後期45% ）が低下している。親子の会話について【保護者】の「思う」割合（ 前期39%→後期52% ）は上昇している。【教職員】のハッピーテーブル20に対する取組についての割合は、大きな変化が見られなかった。
18	【児童】への質問「友達を大切にしていますか。」については、「思う」の割合（前期94%→後期88%）が低下している。一人一人を大切にした教育の問いに対して【保護者】の「思う」割合（ 「思う」前期52%→後期67% ）が上昇した。【教職員】の保護者との連携については、前・後期とも同じ割合だった。
19	【児童】への質問「いじめのない学校にしようと頑張っていますか。」については、「思う」の割合（ 前期100%→後期85% ）が低下した。学校の豊かな心や命を大切にしたいじめのない学校づくりについて【保護者】の割合（ 「思う」前期46%→後期67% ）が上昇した。いじめのない学校づくりに対する【教職員】の自己評価の割合（ 前期62%→後期88% ）も上昇している。
<次年度への方向性>	
	○ 後期は、少しずつ改善の傾向が見られた。しかし、保護者や教職員の立場から見ると、挨拶ができていないという結果も見えてくる。挨拶は、する側される側の感情によっても受け止め方が違ってくる。挨拶が生活に必要なコミュニケーションであることを理解させ、学校、家庭、地域が連携して取り組んでいきたい。
	○ 保護者は、前期よりも学校と地域の連携がより深まったと捉えている。後期は、学校外での活動も多くなり、様々な団体と交流する機会も増えた。公民館を中心とした教育力により子どもたちが育っている。今後も地域との信頼関係を大切にして、教育活動を展開したい。
	○ 学校として「ハッピーテーブル20」の推進については、十分でなかったと認識している。来年度は、子どもの発達段階に応じた親子のコミュニケーション手段を提案するなど、新たな改善策を講じたい。
	○ 後期は、児童一人一人をしっかりと見つめ、良さを引き出すことを意識しながら教育活動を行った。また、教職員間の情報交換を日常的に行い、個や場面に応じた指導により、児童間で大きなトラブルは起きていない。来年度も、今の教育環境を維持できるような体制を構築したい。
	○ 後期においても、「豊かな心」や「命の大切さ」を育むため、学校行事や諸活動を行ってきた。今年度もいじめの認知件数は「0」であったことは、成果の一つとして挙げられる。来年度も、地域全体での教育活動を充実させ、思いやりを持って人に接することができる双岩っ子を育成していきたい。